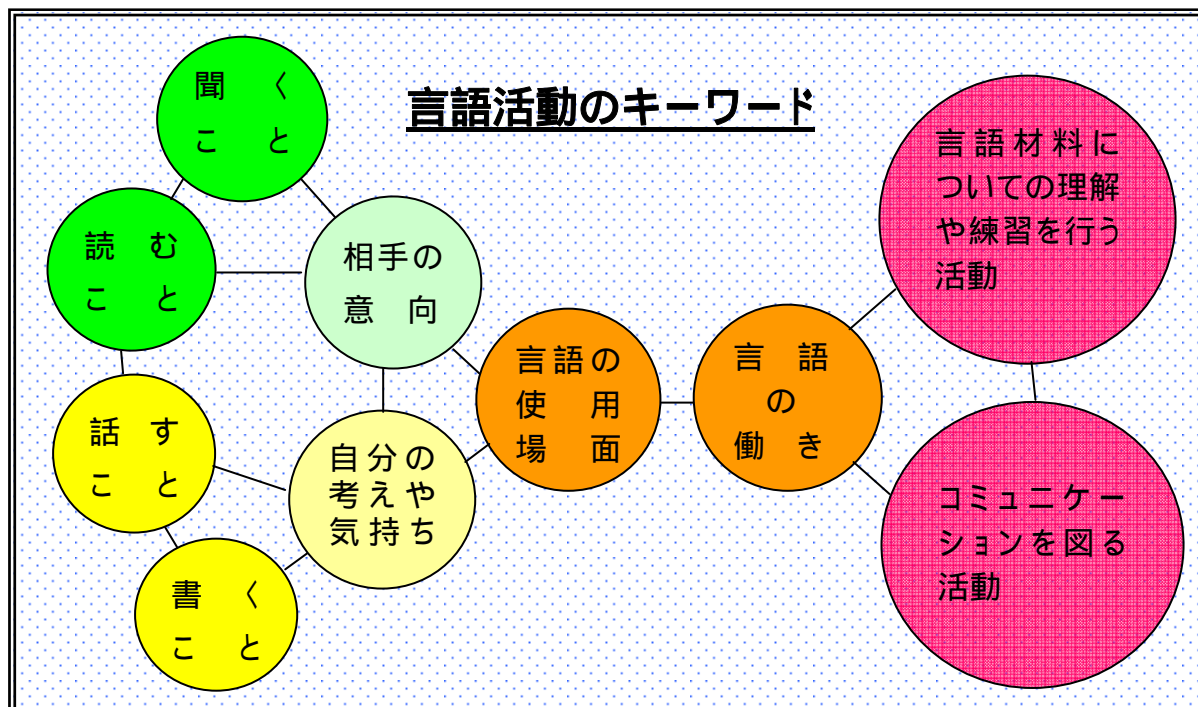


また、言語活動を設定する際、念頭に置いておかなければならないキーワードとして、次のものが挙げられます。



## 「聞くこと」の力を高める指導の工夫をしましょう

これまでの調査では、「聞くこと」については、概ね良好な結果となっています。しかし、調査問題を個別にみていくと、課題もあります。今後、さらに高めていきたい力として、「要点を聞き取る力」や「適切に応答する力」が挙げられます。

学習指導要領「2 内容(1)言語活動」には、「英語を理解し、英語で表現する能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる」とあり、領域ごとにいくつかの指導事項が示されています。そのうち、「聞くこと」の指導事項に、次のようなものがあります。

(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ること。

(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。

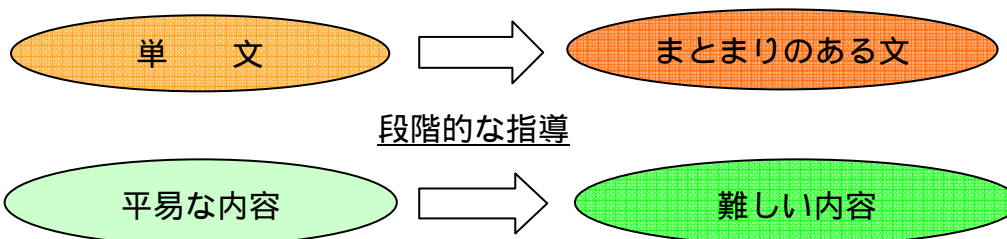
それでは、どのような指導をすれば、「要点を聞き取る力」や「適切に応答する力」を高めることができるのでしょうか。

現在の教育課程での限られた時数で、様々な副教材を授業に取り入れることは難しいと思われます。そこで、これまで先生方が実践されてきた方法をもう一度見直し、授業で無理なく実践できるものを取り上げました。ねらいを明確にして実践することで、より効果があげられると考えます。

## 1 「要点を聞き取る力」を高める指導の工夫をしましょう

### 段階的な指導をしましょう

生徒の「要点を聞き取る力」を高めるには、単文からまとまりのある文へ、また、内容は平易なものから難しいものへ、というように、段階的な指導を心がけることが大切です。



さらに、どのような点に注意して聞き取ればよいかなど、生徒に聞き取りのポイントを理解させることも大切です。そうしないと、生徒はどのような点を聞き取ればよいかわからずに、漫然と聞き流してしまうことにもなりかねません。

### 単文レベルの指導

身近な事柄を取り上げて、いくつかの単文を聞かせます。一つの文の聞き取りに集中すればよいので、生徒にとっては取り組みやすいものとなります。聞き取った文の内容が正しいと思ったら挙手をさせ、理解の状況を確認めます。

このとき、教師が示す文の内容として、一部の生徒しか分からないようなものは取り上げないようにします。例えば、Ichiro is on Seattle Mariners. のような文は、野球に興味がない生徒は分からないと思われるので扱わない、ということです。ただし、多くの生徒が分からないと思われる内容なら、正解を予想するクイズ感覚で行え、生徒も興味をもって取り組むことができます。次の文例のうち、【外国について】の文がそれに当たります。

### 文例

【事実について】

There are seven days in a week.

May 5 is the day for boys.

Mt. Fuji is the highest mountain in Japan.

【学校生活について】

We have five classes today.  
There are thirty students in this class.  
All the students in this class like English.

【外国について】

Baseball is more popular than soccer in South Korea.  
We can watch NHK *Nodojiman* on TV in America.  
The tallest building in the world is in Taiwan.

### まとまりのある文の指導

ある程度まとまりのある文を聞かせるときは、学年や生徒の実態に応じて、文の量や難易度を考慮することが必要となります。特に、用いる語彙や文法によって難易度が変わるので、事前によく吟味しておく必要があります。一方、学習した直後の語彙や文法を意図的に用いることもできます。

次に示すのは、学年に応じた文例です。いずれも、教師が写真を示しながら、生徒にとって身近な「友達の紹介」を取り上げたものです。同じ話題でも、学年によって用いる語彙や文法事項が異なり、難易度が変わるということが分かります。

対象学年：第1学年  
時 期：3人称単数現在形を学習した後  
文 の 数：5文程度

This is my friend, David.  
He likes sports very much.  
He plays baseball in the park.  
He likes music too.  
He plays the guitar very well.

対象学年：第2学年  
時 期：動名詞を学習した後  
文 の 数：7文程度

This is my friend, David.  
He likes sports very much.  
Baseball is his favorite sport.  
He enjoys playing baseball on Sunday.  
He likes music too.  
He likes playing the guitar with his friends.  
Every Wednesday he goes to a studio to play the guitar.

対象学年：第3学年

時期：現在完了形（継続の用法）を学習した後  
文の数：9文程度

This is my friend, David.  
He likes sports very much.  
Baseball is his favorite.  
He has played baseball for seven years.  
His father has taught him how to play.  
He loves music too.  
Hip-hop is his favorite.  
It makes him excited.  
He has learned hip-hop dancing for three years.

### スモールトークを活用しましょう

スモールトークは、ウォームアップなどでよく行われるもので、生徒同士で話をさせたり、教師が生徒に話を聞かせたりする活動です。もちろん、教師が生徒とインタラクションを取りながら進めることもあります。教師が行うスモールトークには、次のような利点があります。

短い時間で行うことができる

既習事項を意図的に用いて話すことができる

#### 教師が行うスモールトークの利点

身近な話題を扱うことで、生徒の興味・関心を高めることができる

生徒の実態に合わせて話す内容や速さを変えることができる

こんなに利点のあるスモールトークを、ぜひ授業で活用したいわね。



## 教師が行うスモールトークの例

対象学年：第2学年

トピック：日曜日にしたこと

指導手順： 教師自身が日曜日にしたことを、インタラクションをとりながら話す。

インタラクションをとらず、もう一度話をする。

T - Fクイズを行い、生徒の理解度を確認する。

配慮事項： ' インタラクションをとることで、生徒の興味・関心を高める。  
' 聞き取りのポイントを確認してから話をするようにし、要点を理解することに集中させる。  
' 生徒の実態に応じて、Q & Aなどを取り入れる。

T: Now I'll tell you about yesterday. What day was yesterday?

Ss: Sunday!

T: Right. Yesterday was Sunday. I went to Tokyo Disney Land with my family. Do you like TDL?

Ss: Yes.

T: Oh, many of you like TDL. There are a lot of attractions in TDL. Which attraction do you like the best? How about you, Ken?

K: I like Space Mountain the best.

T: Is that right? My son loves Space Mountain too. He wanted to ride it, but a lot of people were waiting there. It took about an hour to ride it.

S: That's lucky! When I was there, I waited more than two hours.

T: Wow! You're kidding! Who likes Space Mountain? Please raise your hands.

(About half of the students raised their hands.)

T: Wow, many students like Space Mountain. Why do you like Space Mountain, Yumi?

Y: Because it's exciting.

T: Oh, I see. After all we could ride only five attractions yesterday. We came home about eleven. We were very tired.

OK. Now I'll tell you my story one more time. Please listen carefully. Especially, where did we go yesterday? What did we do there? What time did we get home? After that, I'll give you T-F quiz.

\* 下線部は、「聞き取りのポイント」

こういったスモールトークを繰り返すことで、生徒は聞くことに慣れるとともに、ポイントを絞って聞くことができるようになります。

利点が多く、準備に手間をかけずに無理なく行うことができるスモールトークを、意図的・継続的に授業に取り入れていきましょう。

## 2 「適切に応答する力」を高める指導の工夫をしましょう

教育課程実施状況調査で、「英語での問いかけに応答する」というねらいで出題された問題について、本県の通過率が低かったものに、次のようなものがありました。

英語の話しかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを1～4の中から一つ選んで、その番号を の中に書きなさい。話しかけは2回繰り返して言います。

(1) <学校で友達が>

- |   |                      |       |      |
|---|----------------------|-------|------|
| 1 | I am sick now.       | 4.1%  |      |
| 2 | I am OK now.         | 11.2% |      |
| 3 | I was sick in bed.   | 30.7% | (正答) |
| 4 | I am playing tennis. | 53.7% |      |

<Script>

M: I didn't see you at tennis practice yesterday. What were you doing?

くり返します。

.....

(2) <家でお母さんが>

- |   |               |       |      |
|---|---------------|-------|------|
| 1 | Father is.    | 24.1% |      |
| 2 | Mother is.    | 12.1% |      |
| 3 | All right.    | 44.3% | (正答) |
| 4 | That's right. | 19.1% |      |

<Script>

M: Father is cooking in the kitchen. Will you help him?

くり返します。

.....

それぞれの問題の通過率が低かった原因として、読まれた文の意味を理解できなかったということとともに、次のようなことが考えられます。

(1)では、4の I am playing tennis. という文を正解として選んでしまった生徒の割合は、5割以上となっています。これは、質問文が What were you doing? という進行形を用いたものであったため、その言語形式に合うような選択肢を選んでしまった生徒が多かったと思われます。(2)では、4の That's right. を選んだ生徒の割合は、約2割となっています。All right. と That's right. は表現が似ており、生徒は混同してしまったのではないかと考えられます。

それでは、生徒がそのような誤りをしない力を身に付けたり、適切に応答すること

ができる力を高めるためには、どのような指導をしていけばよいでしょうか。ここでは、二つのポイントを示します。

言語形式にとらわれすぎないようにするために

授業中の言語活動について、言語材料についての知識・理解を深める活動(「言語材料についての理解や練習を図る活動」)だけではなく、考えや気持ちを伝え合う活動(「コミュニケーションを図る活動」)もバランスよく行い、それらを通して、相手の意図を理解する力を高める。

「言語材料についての理解や練習を図る活動」は、まさに言語形式に慣れさせるために行う活動です。そのため、授業で行う活動がそういった活動に終始してしまうと、生徒は言語形式にのみ意識が向いてしまいます。もちろん、正しい言語形式を身に付けることは大切ですが、それが身に付けばコミュニケーションを図れるというわけではありません。

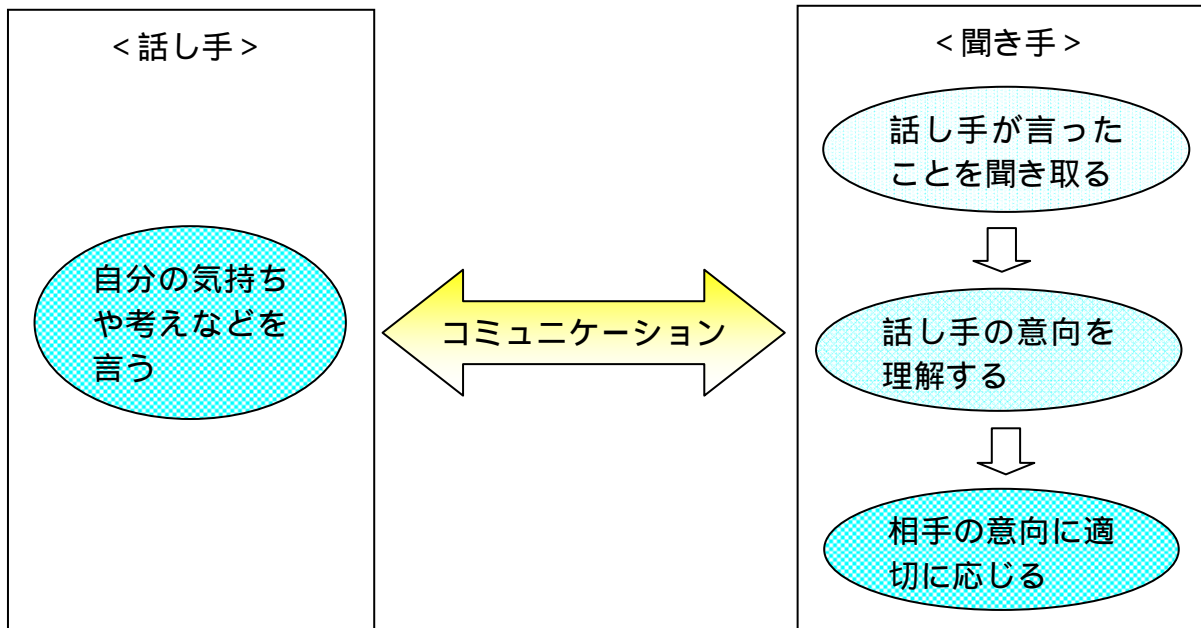
そこで、「コミュニケーションを図る活動」でメッセージのやりとりを通して、その時間で学んだ文法事項や既習の表現を使わせるようにします。ここでは、相手と意思疎通を図ることが重要となるので、相手の意向などに応じて、適切な表現を選択して使用することになります。適切な表現とは、ときには、定型的な表現とは異なる場合もあるので、このような活動を通して、生徒に英語をコミュニケーションの手段として使う経験を積ませていくことが大切です。

似た表現を混同しないようにするために

知識としてだけでなく、教師とのインタラクションや言語活動などを通して、実際に英語を使うことを通して身に付くようにする。

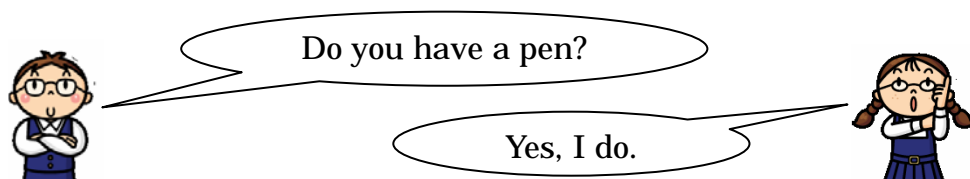
場面設定した言語活動の中で、適切な表現を用いるようにさせます。意味のある場面で使うことによって、表現を単なる知識として記憶するのではなく、より現実感を伴って定着を図ることができます。

ここで、実際に英語を使ってコミュニケーションを図る場面を考えてみましょう。まず話し手が自分の気持ちや考えを言います。聞き手は、まず、話し手が言った文の意味を理解します。さらに、その文の内容から相手の意向を理解します。そして、それらを理解するだけでなく、言葉や行動などで「相手に適切に応じる」ことでコミュニケーションは成立します。

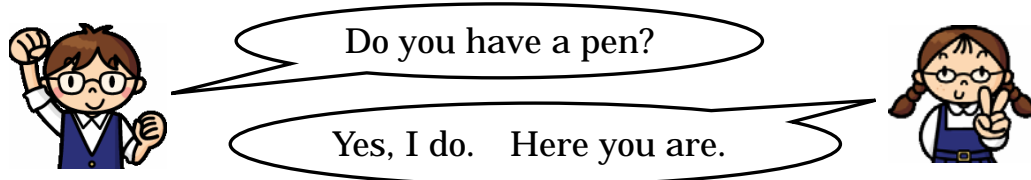


いずれにせよ、教師は、日常の授業を通して生徒の「適切に応答する力」も高めていかなければなりません。

ここで、英語使用の一場面を例に取り、考えてみましょう。次の対話例を見てください。相手に“Do you have a pen?”と尋ねられたとき、もし自分がペンを持っていれば“Yes, I do.”と答えます。これは、文法的には正しい応答です。



しかし、コミュニケーションという点からは、このような応答では十分とは言えない場合が多いのではないのでしょうか。なぜなら、日常生活においてこのような質問をするのは、相手がペンを所有しているかどうかに興味があるというより、ペンを持っていたら貸してもらいたい、という意図があるからです。ですから、聞き手はその意図を理解し、下の対話例のような受け答えをして、ペンを貸すことで適切な応答となり、コミュニケーションが成立したことになります。



このような、相手に「適切に応答する力」を生徒に身に付けさせるためには、教師が様々な言語活動を設定し、実際に生徒に英語を使わせることが大切です。そうすることで生徒は、単なる知識としてではない、「使える英語」を身に付けていくことができるのです。